小学校は今どうなってる？

自分の頃と何が違うの？

どんな勉強が追加されたの？

気になるあなたに今の小学校を

お伝えします！！

入間市教育委員会
家庭教育応援通信
２０２５年６月

こんにちは　こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では

子育てに必要な情報を

皆様にお伝えしていきます。

今回は、今の小学校について考えてみます。

まずは昭和30年代に

もどってみましょう。

入間市マスコットキャラクター
「いるティー」

ベビーブームの影響

学校制度が整ったのは明治時代ですが、昭和３０年代、学校に大きな変化がありました。

まず、戦後ベビーブームで児童生徒数が急増しました。このとき、一人の教師が大勢の児童を教える形ができました。

少子化で減ってはいますが、1学級あたりの児童の数は、諸外国に比べて多い状況です。この点は今でもあまり変わっていません。

高度経済成長の影響

もう一つは、高度経済成長による社会の変化です。昭和３３年の学習指導要領改訂では、授業時数が増加され、授業の内容も現代化、高度化されました。

学校では、知識の量（暗記）を重視し、大量の情報を短期間に詰め込む教育、いわゆる「詰め込み教育」が主流になりました。

学校教育の在り方については、時代とともに変わっています。

「詰め込み教育」の弊害

「詰め込み教育」では、授業内容についていけてない子たちや、校内暴力などといった問題行動が見られるようになりました。

これに対して、中央教育審議会が昭和５６年に「生涯学習」という考え方（教育理念）を示しました。

中央教育審議会とは、文部科学大臣の諮問（意見をたずねること）に対して、あるべき教育の姿を話し合って答える機関です。

教育理念の改革

そのときの考え方（教育理念）は、

人生に必要なすべてのことを学校で教える「完成型」の学校から、人生の様々な場面で各自が自ら学び、学校はそのために必要な基礎基本を教える「基盤型」への発想の転換を求めるものでした。

「生涯学習」という考え方で、学校では基礎基本を教えて、社会に出たら自分で学べるような仕組みにしていこうという提案です。

生活科と総合的な学習の時間

　そこで、新たな学習が始められました。平成元年には小学校１、２年生の理科・社会が、「生活科」になり、平成10年には「総合的な学習の時間」が新設されました。

　いずれも、教員がただ教えるのではなく、児童が自分で疑問や課題を設定し、その解決に向かう姿を期待したものでした。

「ゆとり教育」

授業時数を削減して、各学校が「ゆとり」の中で地域に合った教育を展開し、「基礎基本」を確実に身につけさせ、生涯で自分で学び考えるための「生きる力」を育む。

理念そのものは素晴らしかったのですが、社会に出た後で個人が学ぶための条件整備や、教員の理念に対する理解などが十分ではありませんでした。

？ ？

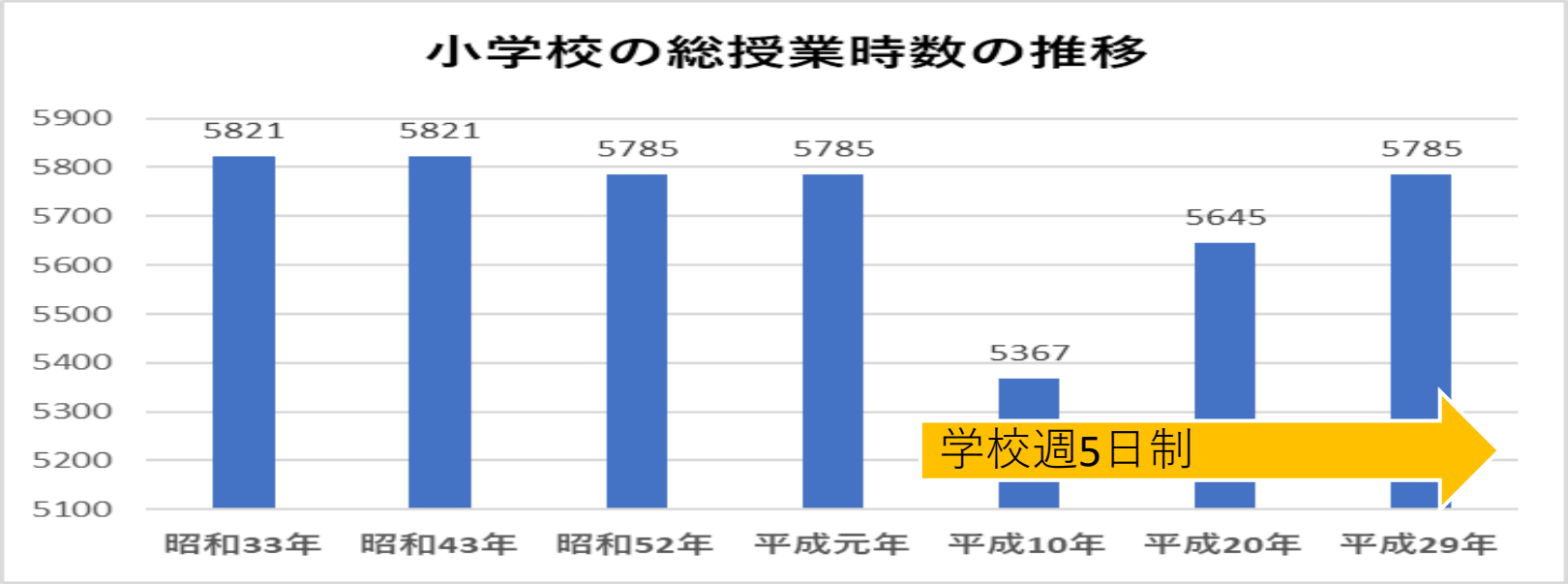
ＰＩＳＡショック

　さらに、平成12年、16年に実施された国際的なテストＰＩＳＡの結果、学習離れ、学力格差といった様々な課題が浮き彫りになりました。ＰＩＳＡショックです。

　ここから、文部科学省が「確かな学力」という言葉を示すなど、学力向上が前面に出されるようになりました。平成20年、削減された授業時数が再び増加されました。

授業時数の増加

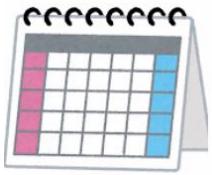
学校週５日制で、平成4年から土曜授業がなくなりましたので、平成10年は見た目ほど減ったわけではありません。平成２９年は、実際には、平成元年より一日当たりの授業は増えています。



地域や学校ごとの工夫

　そのままだと、6時間の日が増えて、それまでやっていた補習などの放課後の活動ができなくなる、といった声があがりました。

　そこで、今の学校では授業時数と活動時間の確保のために、夏休みを早く切り上げる、休み時間を短縮する、土曜日に公開授業を実施する、1時間目の前に短時間のモジュール学習を設ける、などの工夫をしています。



授業も変わりつつある

例えば、算数の授業。以前は、問題の解き方を教師が教える知識伝達型が中心でした。今の学校では、まず自分で考えて、友達と意見を交わしながら解決方法を探すというグループ学習、ペア学習といった授業スタイルがよく見られます。

社会の急速な変化に対応するため、他の人と協働しながら、新たな課題を自ら解決する力が求められているからです。

ＩＣＴ環境

今の学校では、ＩＣＴ環境も整備されています。入間市では、タブレット型パソコンを児童が一人一台使用しています。

授業では、その場で検索する、写真に記録する、大型モニターに投影して考えを共有する等、様々な形で活用されています。また、配信アプリでの情報提供もしています。

小学校英語

平成14年から小学校に英語教育が導入されています。現在、３、４年生は週1時間、聞くこと話すことが中心です。５，６年生は週2時間、教科書を使って読んだり、書いたりもします。

小学校では英語に親しむのが基本です。ゲームや歌、アクティビティという活動を中心に発音したり簡単なやり取りをします。過度に心配しなくても大丈夫です。

男女平等、個人情報保護

クラスの名簿。以前は、男女別、名前の順が定番でした。今は、男女混合名簿が主流で、順番も誕生日順のところもあります。名前の呼び方も、ちゃん、君をやめて「～さん」としていたりします。

また、個人情報保護の観点から「緊急連絡網」を作成することがなくなりました。アプリで一斉配信したり、欠席連絡をしたりします。

通教指導教室

情緒等についての特別な支援を必要とする児童のために、入間市では、通教指導教室が市内すべての小学校に設置されています。

コミュニケーション能力を高めたり、感情をコントロールできる力を身につけたりして、生活をしやすくするための支援をしています。

通常学級に在籍しながら、週に１～２時間程度通います。同じ校内にあるので保護者の送迎が不要です。

その他、様々な学習

プログラミング学習

主権者教育

防災教育

キャリア教育

食育

6年生対象の全国学力・学習状況調査

……新たな課題に対する学びが進められています。

今回は、
今の小学校について考えてみました。
少しでも皆様の学びのヒントになれば幸いです。
興味を覚えた方は
さらに調べてみてはいかがですか。

本通信の今後の向上のため、下記のURLをクリックしてアンケートにご協力ください

↓こちらをクリック

https://forms.gle/VrGmvy5PtoLznwsZ7

（アドレス等の個人情報は収集されません）

ありがとうございました

入間市マスコットキャラクター
「いるティー」